

おひさま サラダ

2014



vol.140

9

はいっ ポーズ!

《北見地区・美里》

ひな 齊藤未来さんと陽菜ちゃん・帆花ちゃん

（紹介は2ページです）

特集

- 夢を抱いて北の大地へ
～高知県高校生 きたみらい農業を体験～
- ふれて”感じる”
多彩な食育活動を展開



食用馬鈴しょの収穫

季節の薫り



8月下旬、降り続いた雨がようやく止み澄みきった晴天のなか、馬鈴しょの収穫作業が行われる。植え付けまでは順調だったが、生育後半にかけて雨が多く、今年の収穫はやや出遅れた。

遅れを取り戻そうと、黙々とポテトハーベスタを走らせ収穫作業に勤しむ姿があった。ハーベスタの上で手際よく選別された馬鈴しょはコンテナに入れられ、貯蔵施設に送られる。選果されたのち出荷される「新じゃが」はとれたてのおいしさを引き出すため、塩茹でしてシンプルにいただくのがベストだろう。

(石井 睦美)



8月27日、置戸地区勝山の堺信幸さんの圃場にて撮影。取材時には安住の加藤晃章さんと共同で収穫作業を行っていました。堺さんは食用馬鈴しょ(男爵)2^{ダース}を作付しています。下段右の写真はハーベスタの上で選別作業を行っている様子です。

表紙紹介

健康に育って

8月22日、齊藤さんのお宅を訪ねると、「こんにちは！」と陽菜ちゃん和帆花ちゃんらが元気に迎えてくれました。

保育所に通う陽菜ちゃん、お友だちとすべり台で遊ぶのを楽しみにしています。おそと遊びも大好きで保育所から帰ってきたら家にいたがらない時もあるほど。好きな食べ物、スウィードで「今年の夏もたくさん食べたいよ」と教えてくれました。

1歳半を迎えた帆花ちゃんは言葉数も増え、「最近では40語ほど話せるようになり、日々成長を感じます」とお母さん。お姉ちゃんのことを真似ながら、一緒に遊んでいます。取材中も可愛らしい笑顔を見せてくれた陽菜ちゃん、お姉ちゃん。まだ小さいながらも、お姉ちゃんが妹を気にかけるなら、お茶の間で追いかけてこをしたり、ブロックで遊んでいました。おじいちゃん、お孫子でとても可愛いよ」と嬉しそうな様子でした。

仲良く遊ぶ二人のお子さんに、お父さんとお母さんは「健康に育ってくれたら十分です」と優しく話してくれました。

(横田 佳織)



【ご家族紹介】
 斉藤 宏幸さん(38)、未来さん(32)、陽菜ちゃん(3)、
 帆花ちゃん(1歳6ヶ月)
 斉藤 秀雄さん(70)、信子さん(64)、ミヨ子さん(92)
 斉藤さんは、小麦、てん菜、玉ねぎ、馬鈴しょなど約35%を作付
 しています。

もくじ CONTENTS

特集①	4
高知県高校生 きたみらい農業を体験	
特集②	8
ふれて“感じる” 多彩な食育活動を展開	
○季節の薫り	2
○表紙紹介 「健康に育って」	2
○JAきたみらい ホットライン東西南北	10
○ほのぼの広場	14
・きたみらいのホープさん	
・なかよし夫婦	
・わが家のアイドル	
・プリティーウーマン	
・大きくなったら	
・元気な先輩	
・思い出の写真	
・まちがいがし	
・読者の声	
○JAからのお知らせ	18
○おひさまサラダクッキング 「イワシのサンドイッチ」 「マチェドニア」	20

夢を抱いて北の大地へ 高知県高校生 きたみらい農業を体験

8月21日から26日までの6日間、JAきたみらい管内の農家のもとで高知県内3校の高校生13名が実習を行いました。
この取り組みは明治時代、高知県から北見周辺に入植したことをきっかけに平成10年から始まりました。4戸の畑作農家と6戸の酪農家にホームステイし、きたみらい農業を体験した様子と感想を紹介します。

高知農業高校

2年 小西 健太

北海道で学んだことを将来に

酪農業を見たり体験して、将来の自分や高知の農業に生かすことが出来たら、と思い参加しました。牛舎では搾乳や牛の放牧をしたり、寝わらを替え、畑では玉ねぎの草取りなどを体験してもらいました。牛の世話は高知でもやったことがありますが、実習先では頭数が多いので大変でした。高知にはない広大な土地を利用し、放牧をしていることが印象的でした。北海道ならではのことがいっぱい帰ってから習ったことがうまく応用できるのか不安ですが、良い体験が出来ました。

小西くんの受入農家は訓子府地区・清住の谷本茂樹さんです



▲挨拶する小西くん



▲上段：谷本さん(右から3人目)
下段：小西くん(右から3人目)

幡多農業高校

2年 奥田 仁絵

今後に生かせる実習に

将来、農業に携わりたいと思っています。地元とは違う、テレビなどでしか見たことのない北海道の農業を見てみたいと思って参加しました。雨でほとんどの作業が草取りになってしまいましたが、玉ねぎの収穫の様子を間近で見ることができました。作業をするための移動だけでも時間がかり、草取りも1人だと1日では終わらないような広さで大変だと感じました。今回の実習で農業に対するイメージや考えが変わり、色々な作業があることを知りました。学んだことを心に留めて、今後の進路に生かしたいです。

奥田さんの受入農家は訓子府地区・西富の河合正重さんです



▲餌寄せ作業をする部府くん。左上写真は横川さん一家と

幡多農業高校

2年 部府 飛翔

学校の授業に生かしたい

僕は将来農業関係の職業に就きたいと思っています。高知県であまり体験することができない大規模農業の勉強がしたいと思い北海道での実習に参加しました。角切り、注射、子牛の世話、雑草刈りなど色々な作業をさせてもらいました。中でも分娩の手伝いをしたことが印象に残っています。搾乳作業は頭数が多く体力的にも大変でした。実習で学んだことを学校の授業と結びつけて、将来に生かせればと思います。

部府くんの受入農家は訓子府地区・緑丘の横川弘紀さんです

幡多農業高校

3年 谷 洋介

実習を通して一段階強く！

北海道の大規模な酪農を自分の目で見て、体験してみたいと思い参加しました。朝は思っていたよりも早く起きなければいけなかったのが大変でした。寝起きで搾乳作業をするのになかなか慣れることができませんでした。ただ、北海道は涼しく作業がしやすかったのが救いでした。この重労働で気温も高かったら、もっと辛かったんだろうなと思います。知識もついて、心も体もまた一段階強くなれた気がします。

谷くんの受入農家は訓子府地区・実郷の森岡道雄さんです



▲わらを寄せる谷くん。右上写真は森岡さんと

幡多農業高校

2年 佐竹 花

食のありがたみを感じる

自分の視野を広げることができ、食へのありがたみを改めて感じられるのではと思い参加を希望しました。作業中、畑が広大で作業の終わりが見えない、と何度も思いました。特に草取りが一番大変でした。屈んで草を取る繰り返しで、腰が辛かったです。いつも何気なく食べている野菜を作るのはとても大変で、労力がいると感じました。大型の機械も初めて見るものばかりで、実際に動いているものは迫力があり、驚きました。学んだことを今後の糧として、今まで以上に積極的に農業に関わっていきたいです。

佐竹さんの受入農家は訓子府地区・西富の清井敏行さんです



▲玉葱の葉分け作業を行う佐竹さん。
右上写真は清井さん夫婦と

幡多農業高校

2年 佐竹 胡桃

感謝の心忘れずに

牛の哺乳や羊の餌やりを体験しましたが、朝早くから夕方遅くまで作業をするのが大変でした。高校では出来ない作業で、初めは体力的に辛かったです。それでも一日一日頑張っていていきました。それだけ大変な仕事なのに、田中さんの牧場は普段3人で作業をしていてすごいと思いました。仕事の合間の野イチゴ狩りや、歓迎パーティーをしてくれたのも良い思い出です。実習を受け入れて下さった田中さんに感謝を忘れずに、教わったことを今後の勉強に生かしていきたいと思います。

佐竹さんと津野さんの受入農家は置戸地区・常盤の田中真さんです

2年 津野 あずさ

朝の早さに驚き

北海道の牛はどのように飼育されているのか、酪農の現場を見てみたかったので実習に参加しました。朝は4時半起きで、5時から仕事が始まることに驚きました。サイレーの給餌は量が多くて運ぶのが大変でした。高校で飼育している牛は人になつていて落ち着きが無いけれど、田中さんの牛はとてもおとなしかったです。出迎えていただいたのは心がとても良かったです。実習もがんばれました。高知に帰っても、田中さんに指導していただいたことを意識しながら牛と関わっていきたいです。



▲左から津野さん、田中さん、佐竹さん



▲餌寄せ作業を行う二人。羊のかわいさには笑顔がこぼれる



▲松崎さん一家と山中さん（中央左）と濱田さん（中央右）



▲わらを運ぶ山中さんと濱田さん

春野高校

2年 やの まさのり
矢野 雅典

畑の規模の違いに驚き

家が農業をしていて北海道独自の栽培技術を学び今後
にいかしたいと思い参加しました。実習ではカーネー
ションの花摘み・玉葱のサイズ分けなどを行いました。特に
玉葱の根などを切る際、中腰での作業で腰が痛くなっ
てきた時が大変でした。実習を通して、高知とは畑の規模
が違いすごいと感じました。水口さんの家で学んだこと
を学校の授業などでいかしていきたいと思います。水口
さんはとても優しく、ご家族の方も良い人ばかりで大変
お世話になりました。また今度来たいです。

矢野くんの受入農家は端野地区・川向の水口靖一さん
です



▲ポプリの原料となる花を摘む矢野くん
左上は水口さん夫婦と矢野くん

高知農業高校

2年 やまなか かおる
山中 薫

もっと体力をつけて、てきぱきと

高知と北海道の酪農の違いを体験してみたいと思い
参加しました。実習では搾乳、エサやりなどをやらせ
てもらい、中でも牛舎の掃除が大変でした。限られた
時間の中で作業を終わらせないといけないので、それ
を毎日しているのはすごいと思いました。自分の体力
のなさを感じたので、もっと体力をつけられるように
頑張りたいです。今後は学校の実習などで作業をてき
ぱきとできるようにしていきたいです。いい経験がで
き、北海道実習に参加して本当に良かったと思います。

2年 はまだ
濱田 みく

規模が大きくビックリ

1年生のときは参加できなかったのが今年こそはと
思い、北海道の酪農とはどんなものか体験してみたく
て参加しました。実習では搾乳、掃除、床替え、エサ
寄せ、ミルクあげ等を行いました。特に大変だと思
った作業はありませんでした。北海道は何もかも大き
くて、本当にびっくりしました。哺育・育成センター
にも連れて行ってもらえて、規模が大きく、たくさん
の牛を見れたことがとても嬉しかったです。毎日搾乳
をさせてもらったので、実習の時などに生かしてい
きたいです。

山中さんと濱田さんの受入農家は端野地区・豊実の
松崎常雄さんです

幡多農業高校

2年 のむら あやか
野村 綾香

やりがいや苦労差を知る

北海道の農家さんのところで実習して高知との違い
や苦労の差を知りたかったし、動物が好きなので参加
しました。実習では搾乳、哺乳、お産の見学、ベッド
メイキングなどを行いました。特に牛の誘導などが難し
かったです。作業はすごい肉体労働で、牛の数も学校
より多いなと思いました。農家さんのやりがいや苦労
なども聞いて、手早く作業ができるやり方などいろん
なことを学んだので、これを高知に持ち帰って今後の
実習に生かしたいです。石井さんの家族みんなが優し
く教えてくれたので作業もやりやすかったです。

2年 ひじや あみ
泥谷 亜美

学校ではできない体験

高知と違う農業を体験し、農業を通して何かを学び
たくて参加しました。実習では牛の世話などの基本的
なことを学びました。自分のやる仕事を覚えるのは大
変でしたが、学校ではできない体験ができとても楽し
かったです。今回、大規模農家さんのところで体験で
きたので、農業に何らかの形で生かしたいと思います。
教えてもらったことは大人になるまで忘れずに自分
のものにしていきたいです。家族みなさんが優しくて、
1週間がんばれました。また機会があれば石井さんの
ところで実習をしたいです。

野村さんと泥谷さんの受入農家は温根湯地区・大和
の石井一男さんです



▲選別作業を行う長山くん。左上写真は福井さん夫婦と



▲石井さん親子と野村さん（中央左）と泥谷さん（中央右）



▲餌寄せ作業をする野村さんと泥谷さん

春野高校

2年 ながやま たつや
長山 竜也

北海道に負けない農業を

実習では主に玉ねぎやいもの作業を手伝いました。根
切りの手伝いや、機械が通れるようにするため手作業で
道を作ったり、大きな機械で収穫も体験しました。畑が
とても広く1畝が長かったし、根切りをする際凸凹の足
場のなか機械について行くのが大変でした。北海道は畑
が広く、主に機械で作業をしていました。倉庫にはたく
さんの機械があったのがとても印象に残っています。高
知では大規模な農業はできないけれど、北海道に負けな
いくらいの他の方法を考えて今後頑張っていきたいと思
います。

長山くんの受入農家は北見地区・豊地の福井範雄さん
です

特集

ふれて「感じる」 多彩な食育活動を展開

収穫期を迎えたJAきたみらい管内では食育活動が活発に展開。ここでご紹介するお馴染み「がぶりがるちゃー」や今年2回目の「小麦まるごと体験ツアー」など、様々な方向に食育活動が広がりをみせています。

農村の味を「がぶり」と体験

〜芋掘り体験に145組559人が参加〜

今年で27回目を迎える農業体験「がぶりがるちゃー」が8月9日、北見市仁頃の田園空間情報センターの圃場で行われ、「家族芋掘り体験会」に親子145組、総勢559人が参加し、大いに賑わいました。

同事業は北見市、JAきたみらい、土地改良区ほか7団体で構成する「がぶりがるちゃー実行委員会」が主催。農業体験を通じて消費者に地域農業への理解を深めてもらい、農村と都市との交流を通じて、ふるさとの活性化を図ることを目的としています。

当日は、1組に3坪程度の面積が割り当てられ芋掘りを体験。圃場のあちこちから家族の笑い声や「たくさん穫れたあ」という子供たちの楽しい声があがっており、家族一丸となった収穫作業で時間を忘れるほど楽し



▲主催者を代表し、
歓迎の挨拶をする
櫻田北見市長

しいひと時となりました。留萌市から参加されていたご家族は「毎年参加していて今年で5回目。遠くから来たので少し遅れちゃいました。帰っておいしくいただきます」と話してくれました。

収穫後には、掘りたての芋で作られた豚汁や鹿肉のジンギスカンなどが振る舞われ、参加者は収穫体験を含めた農村の味を「がぶり」と平らげ、収穫した芋を大切にすに持ち帰りました。

(梅澤 大)



小麦にふれて・見て・食べて満喫！

地産地消イベントに37人が参加

8月2日に北見市でオホーツク産小麦の食文化を広めるとともに、地産地消の気運を高め1次産業への理解を深めてもらうことを目的とした「小麦まるごと体験ツアー」が開かれました。このツアーは北見市が主催で、(財)オホーツク地域振興機構、網走農業改良普及センター、当JAが協力して行っており、昨年に引き続き2回目の開催となりました。

市内12組26人の親子のほか、北見藤女子高等学校の「開校60周年ライメン開発プロジェクト」に携わる生徒と先生11人が参加しました。初めに北見市広郷のJAきたみらい麦作振興会の西野副会長の圃場で、小麦畑に入って穂の観察や動くコンバインの見学、麦稈ロールに乗ってみたりと、小麦にたくさんふれる体験を行いました。次に当JAの小麦乾燥調整貯蔵施設を見学。普段見ることのできない施設の内部や、操作室を見て回りました。

その後、昼食に地元で生産された「春よ恋」と「きたほなみ」をブレンドした小麦粉でピザ作りを体験。全日本司厨士(しちゅうし)協会北見支部の天池シェフの指導のもとで生地をのべし、具をトッピングして、本格的な石窯を使って焼き立ての手作りピザを堪能しました。参加者は「こんなにおいしいピザが作れるなんてすごい！」とオホーツク産小麦のおいしさに驚いていました。

(丸山 恵理)



▲西野副会長の小麦圃場で記念撮影



▶圃場で穂を観察する子どもたち



▶親子でピザ作り体験



▶小麦について一生懸命学習中

温根湯

『春よ恋』 収穫スタート

～大型コンバイン8台を
フル稼働～



▲大型コンバインにより快調に収穫が進む

夏らしい蒸し暑い日が続くなか、温根湯麦類生産組合（福崎波夫組合長）では、春まき小麦「春よ恋」の収穫作業を8月9日から開始しました。温根湯地区では43戸の生産者が約180畝の春まき小麦を作付けしています。今年の春は天候にも恵まれ、は種作業は概ね順調でした。5月から6月の干ばつ傾向で実入りが心配されましたが、その後は好天に恵まれ生育が回復、乳熟期は平年より3日早くなり、順調に生育しました。収穫適期を迎え、直前の降雨の影響により収穫開始は昨年より2日遅れとなりました。福崎組合長は「今年は生育も順調に進み、平年を大きく上回る生産量が期待できるが、収穫期の降雨の影響により品質の低下が懸念される。天気予報や空模様とにらめっこしながら、大型コンバイン8台をフル稼働させています」と話してくれました。

「雨はもうたくさん。青空が続いて欲しい」という思いだったのではないのでしょうか？

（梅澤 大）

相内

好・珍プレーに 歓声あがる

～年金友の会
パークゴルフ大会～



▲ナイスショットを打つ参加者のみなさん

J Aきたみらい相内年金友の会（中川強会長）は8月19日、東相内河川敷パークゴルフ場で、第29回年金友の会パークゴルフ大会を行い、会員33人が参加しました。このパークゴルフ大会は、会員相互の親睦を図り、健康で生きがいのある明るく楽しい生活を目的として毎年2回開催しています。当日は小雨でパークゴルフ日和とはなりませんでした。が、会員のみなさんは日頃の練習の成果を十分発揮され、各ホールからは好・珍プレーのたびに歓声があがっていました。プレー中、中川会長は「会員相互の親睦を深めるとともに、心身ともにリフレッシュすることができそうです」と話してくれました。

本大会の優勝者は、男性の部は高橋直次さん、女性の部は高橋サダヨさんでした。9月には、同会主催のゲートボール大会や輪投げ大会が開催されます。

（土屋 正樹）



▲人気を集めた焼き鳥コーナー

雨にも負けず 短い夏を楽しむ

～ふるさと夏祭りに
住民ら大勢参加～

上常呂

上このころの夏の風物詩となっている「ふるさと夏祭り」が8月14日、旧ふるさと銀河線上常呂駅前で開催され、ゲーム大会や縁日など多彩な催しが行われました。

当日は、時おり激しい雨が降るあいにくの天気で、客足が心配されましたが、夏休み中の子供たちや農作業を終えた組合員の皆さんが大勢訪れ、会場は大賑わいとなりました。雨が止んだ夕方からは盆踊りが行われ、子供たちは浴衣姿で、大人は仮装をして踊り、短い夏を楽しみました。

フレッシュミズ上常呂支部（大丸美喜子支部長）も焼き鳥コーナーを手伝い、焼き上がりが間に合わないほどの人気振りでした。

（埴山 里子）

置戸

素材生かした 調理方法学ぶ

～佐々木十美さん 講習会に
会員10人が参加～



▲佐々木さん（右から2人目）の指導を受ける参加者のみなさん

フレッシュミズ置戸支部（森脇由記支部長）は20日、置戸町中央公民館にて管理栄養士の佐々木十美さん指導のもと10人の会員が参加し、初めての料理講習会を行いました。豊富な夏野菜を素材に、佐々木さんは保存のきくトマトピューレなどの作り方を指導。メインディッシュにピューレを活用したキーマカレーを作りました。また、熟れる前の青いトマトを使ったシャキシャキ食感のサラダが披露されると、意外な調理方法に会員たちは興味津々の様子でした。料理完成後、各班で作ったカレーを食べ比べ、食材の切り方や鍋に入れるタイミング次第で味が引き立つことも学びました。

森脇支部長は「一手間加えるだけで市販のルーを使わず、ここまで美味しいカレーができることに驚いた。会員も調理を楽しんでいたので、来年も開催してみたい」と話していました。

（石井 睦美）

端野

太陽まつりで賑わう

～女性部出店
売れ行き好調～



▲一勝負ごとに歓声があがるウォーター口デオ大会

端野町屯田の杜公園メルヘン広場にて8月24日、第37回たんの太陽まつりが開かれ、大勢の来場者で賑わいました。太陽まつりは昭和53年から続く端野の伝統的なお祭り。家族連れの方々が焼肉を味わうなか、郷土芸能「端野豊穰太鼓」などが披露されました。女性部端野支部（山腰育子部長）は実行委員として参画し、当日は新鮮野菜の販売や、フリーマーケットを出店して人気を集めました。参加した部員からは「去年よりも野菜の売れ行きが良い」と声が上がっており、人気は上々でした。とりわけ人気だったのがウォーター口デオ大会。丸太の上で向かい合った二人が発泡スチロールの棒で互いにたたき合い、相手を水中に落とす競技。3人一組でチームをつくり、今年は小学生から大人まで36チームが出場。一勝負ごとに大きな歓声があがっていました。

（高田 陽介）



▲新鮮野菜を買い求める地元のみなさん

新鮮野菜を 格安で

～青空野菜市開催～

留辺蘂

女性部留辺蘂支部（橘佳子支部長）は8月12日、エコープるベレバ店前駐車場にて、青空野菜市を開催し、部員6人とフレッシュミズ役員3人が参加しました。野菜市は毎年女性部主催で行われおり、今年で21回目。スイートコーンやトマトといった夏野菜をはじめ、白菜やキャベツ、馬鈴しょなど10種類以上の新鮮野菜が格安で販売されました。当日は天候にも恵まれ、開店前からテントの前にはお客さんが集まり、今か今かと開店を待ちわびる声飛び交っていました。開店後は両手いっぱい購入していかれる方もあって、大盛況のうちに終了しました。橘支部長は「今年は天気も良く、開店時間を30分早めたことでたくさんのお客さんに来てもらえて良かった」と話してくれました。

（丸山 恵理）

北見

種子馬鈴しょ 大きさも上々

～北見市種芋部会が
坪堀～



▲掘り出した種芋の大きさを確認する生産者のみなさん

北見市種芋部会（竹下雅英会長）は8月18日より、北陽大正、豊地の圃場で種子馬鈴しょ（種芋）の坪堀を行い、今年度の収量を調査しました。北見地区では10戸の生産者が男爵、トヨシロ、コナフブキなどの品種の種芋を作付けしています。生産者は圃場より基準となる畝の長さ分だけ種芋を掘り出し、圃場単位に規格ごとの収量を調査しました。掘り出された種芋の大きさは品種や圃場によってばらつきがあったものの、竹下会長は今年の出来について、「全体的にM規格のものが多く良い出来である」と期待を寄せていました。種芋は8月下旬より収穫がスタートしました。今年度収穫された種芋は移出用を除き、農協の倉庫で保管され、次年度の馬鈴薯生産者の手に渡ります。

（横田 佳織）

訓子府

畑作専門部で 初の食育活動

～食育活動に
部員5人が参加～



▲児童らに説明を行う藤森班長

J Aきたみらい青年部訓子府支部畑作専門部（中村裕一郎部長）のプロシエクト班（藤森秀志班長）は8月1日、小学校児童と保護者らを対象にした食育活動を行いました。畑作専門部は試験栽培などが主な活動ですが、農業を取り巻く環境が大きく変化するなかで、畑の外にも視線を向けなければならぬと同プロジェクトを立ち上げました。当日は大型コンバインによる収穫作業を目の前で見学。輸送用ダンブを待つ間に操縦席の見学も行いました。その後は地場産「きたほなみ」を使ったパスタとピザ作りを行い、完成品はあつという間に完食となりました。中村部長は「小麦畑は知っていても、それがどんな食べ物になるのか知らない子どもは多いと思う。地元の作物がパンやパスタなど身近な食べ物に使われることを知ってほしい」と期待を込めて話してくれました。

（山内 庸平）

わが家のアイドル

相内地区・柏木

小野 楓馬(ふうま)くん(2歳10か月)

愛斗(あいと)くん(10か月)

仲良し兄弟



お昼寝から目覚めてすぐだったため、ちょっとご機嫌ななめでお母さんに寄り添う楓馬くん。家では元気で優しいお兄ちゃんですが、外に出ると人見知りをしてしまう、照れ屋な一面も。愛斗くんは眠いときとお腹がすいたとき以外はほとんど泣かないそうで、笑顔で迎えてくれました。楓馬くんはブロック遊びと戦隊もののテレビを観るのが大好きで、特にキョウリュウジャーがお気に入り。食べ物はカレーライスが大好きです。必ず残さず食べるそうです。愛斗くんは抱っこが大好きで、いつもすぐに手をあげて抱っこをおねだり。この日もお父さんに抱っこされ、満面の笑みを見せてくれました。まだバナナは丸々1本食べちゃうくらい大好物。最近はお菓子もお気に入りです。普段は一緒に遊んだり、テレビを観ている仲良し兄弟の楓馬くんと愛斗くん。そんな2人にご両親は、「人に感謝できる、素直で優しい丈夫な子に育ててほしい」と優しい眼差しを送りながら話してくれました。(丸山 恵理)

楓馬くん、愛斗くんは相内地区・柏木の小野博之さん、剛美さん夫妻のお子さんです。

Pretty Woman



顔と名前を覚えて

北見地区・三輪

和田 祥子さん(54歳)

今回は女性部北見支部長の和田さんに登場いただきました。(丸山 恵理)

◆出身、ご主人との出会いは?

北見市出身で、北見市農協に勤めていました。主人とは、北見市青年ジェットという北見市内で働く若い人が、海外研修に行く企画に参加したときに知り合いました。同年代の人が多く、研修が終わって日本に帰ってきてからも、飲み会などを通し仲良くなりお付き合いすることになりました。青年ジェットのみんなとも、年に1回は今でも集まっています。

◆お子さんは?またどんなご家庭ですか?

息子が1人と娘が1人います。子どもの大学進学後は夫婦2人暮らしで、たまに一緒に買い物に行ったり、年に1度旅行に行ったりと仲良くやっています(笑)

◆趣味・マイブームは?

昔から映画を観るのが好きで、1人で映画館にも行きます。前は洋画が好きでよく観ましたが、最近は邦画の方が多く、ちょっと前に「青天の霹靂」を観に行きました(〃)最近のマイブームは果物を凍らせて作る、手作りアイスにハマっています♪

◆組織活動で楽しいこと、活動に対する今後の抱負は?

やはり他の支部の人と知り合えることが一番楽しいです!また視察に行くのも楽しみで、視察に行くのを糧にしているくらいです(笑)今度の女性部の国内視察研修もとても楽しみです。今後の抱負は、もっと多くの人と親しくなりたいので、いろんな支部の方と交流して、顔と名前を覚えていきたいです。そして皆さんにも女性部活動の楽しさを伝えていきたいです。

ほのぼのの広場

きたみらいの

ホープさん



強い農業経営を!

相内地区・豊田

森谷 利隆さん(22歳)

●趣味は?

基本的にインドア派ですが、ボウリングが好きです。うまくはないですが、友達とよく行きます。

●理想の女性とは?

性格がおもしろい人です。

●農業の難しさを感じたことは?

機械の運転や整備作業の難しさを実感しています。短大の時には学ばない部分なので、大変ですね。

●今後の抱負は?

今後の情勢のなかでもしっかり生き抜いていけるようにしたいです。つぶれない強い農業経営を目指します!

(丸山 恵理)

利隆さんは田畑野菜複合経営の秀男さん、美佐江さんの長男で、就農して3年目になります。

Q出身地は?

祐太さん: 留辺蘂です。

晴香さん: 紋別です。

Qいつ結婚しましたか?

2009年、今年で5年目です。

Qお付き合いしたきっかけは?

専門学校が一緒でそこで出会いました。

Q趣味・娯楽は?

映画鑑賞や美味しいご飯を食べること。

Qこれからしたいことは?

まだ新婚旅行に行っていないので、子供が大きくなったら旅行に行きたい。

Qお互いの感謝の言葉

祐太さん

美味しい料理といつも子供を見てくれてありがとう。

晴香さん

育児を手伝ってくれてありがとう。

▶坂下祐太さん宅で撮影。

(梅澤 大)



ながよし夫婦

これからも二人仲良く

留辺蘂地区・旭1区

坂下 祐太さん(28歳)
はる 晴香さん(28歳)

まちがいさがし

Bのイラストには、Aのイラストと違う部分が5カ所あります。間違っている部分を右下のイラストの中の数字でお答え下さい。

A



B



8月号クイズの当選者

8月号のまちがいさがしの答えは「1、3、7、10、12」でした。正解者28名の中から抽選の結果、当選者は次の方々です。

()内は地区名

- ・山梨 勝也さま (温根湯)・森谷 美空さま (置戸)
- ・梶田 駿介さま (訓子府)・浅川 愛菜さま (訓子府)
- ・黒川 春枝さま (訓子府)・小山田 万里子さま (訓子府)
- ・桑原 幸江さま (北見)・遠藤 幸枝さま (北見)
- ・宮島 茜さま (北見)・広川 風野さま (端野)

以上の方々には、J Aきたみらい新商品のドレスリング2本セットをプレゼントします。



応募方法

答えが解った人は、別紙の応募用紙に答え(番号)と広報誌へのご意見・ご感想を記入してFAXでご応募下さい。抽選で10名の方に、J Aきたみらい「玉葱醤油」と「オニオンコンソメ」をプレゼントします。

元気な先輩

端野地区・川向
ひろよし
阿部 博吉さん
(84歳)



体を動かし健康に

博吉さんは昭和5年に端野町川向に生まれ、高等科を卒業後に就農しました。昭和19年に高等科を卒業してからの1年間は農兵隊として北海道、内地(千葉、群馬、三重など)を援農して回りました。農兵隊とは当時、戦争に働き手を奪われた農家を援農する組織で、昭和20年3月まで隊にいたそうです。苫小牧市樽前で火山灰の土地を掘ったことが記憶に残っていると話し、また東京大空襲の際は過酷だったと当時の様子を話してくれました。実家に戻って農業を手伝うようになってからは15畝程の畑でハッカ、亜麻、甜菜、種芋、水稻の他、みぶよもぎ(薬草)も作付けしていました。労働力は馬しかなく、共同でトラクターを入れるまでは代掻き、除草作業が大変だったと話してくれました。今年から40%の畑で玉葱や野菜を作っており、「体を動かすことが健康に良い」と博吉さん。4〜7月の毎週木曜日には川向の20人程でパークゴルフをしており、秋につるつる温泉に泊りがけで行くのが楽しみと話してくれました。(高田 陽介)

ほのぼのの広場

大きくなったら



訓子府地区・高園
遠藤 柊哉(しゅうや)くん(10歳)
深桜(みお)ちゃん(8歳)

農家を継ぎたい! (柊哉くん)

お父さんが働いているのを見て、農家になりたいと思いました。レバーを使って機械を動かすのは難しそうだけど、がんばりたい。大きくなったら男爵をいっぱいつくりたい。

パティシエになりたい! (深桜ちゃん)

スイーツを作るのが楽しそう。料理の手伝いも好き。ニンジンの皮むきもきれいにできるよ。

遠藤隆昭さん、皆子さん夫婦の次男と長女です。
(山内 庸平)

思い出の写真

この写真は昭和30年の夏、稲わらと水田の畦草を混ぜたものをカッターで裁断しながら牛の餌を作っている様子を撮影したものです。

健作さんの実家では当初5畝の規模で稲作を営んでいましたが、冷害により米が収穫できない年もあったため、毎月安定した収入を得るために、昭和26年より稲作に加えて牛飼いを始めました。当時16歳だった健作さんは、農閑期の冬場のみ野幌にある高校に通いながらも、6人兄弟の長男として家計を支えるために懸命に働いたそうです。

水田に生える畦草は、稲わらより栄養価が高いため牛の餌として重宝されたものの、「毎日鎌で刈り取った畦草を、水田から牛舎まで運ぶのは大変だったよ」と健作さんは当時の様子を振り返りました。この餌作りの作業は、昭和44年に玉葱を導入し、牛飼いをやめるまで続けられました。

平成8年に息子の和雄さんに経営移譲した後も、農作業を手伝いながら忙しい日々を送る健作さん。「これからも体が動くうちは農作業に励みたい」と笑顔で話してくれました。

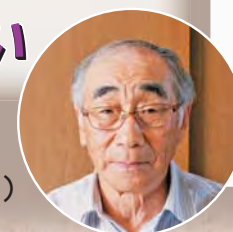
(横田 佳織)



▲右側(手前)が健作さんです

これからも農作業に励みたい

上常呂地区・常川
今田 健作さん(76歳)



こ

の時期になって雨が多くなりましたね。順調に秋の作業も終わってほしいものです。

(訓子府地区・笠野 真太郎さん)

8月は雨の日も多かったですね。これからのお天気にも期待して、順調に作業が進むことを願っています。農作業事故等にもお気を付けください!

毎

回クイズ楽しみにしています。これからもよろしくお願いします!

(匿名希望)

楽しみにしていただきありがとうございます! また応募してくださいね♪お待ちしております(´´)

年

齢・性別問わず幅広い活動や動向を紹介しているのでもって見ていて楽しいと思います♪ 思い出の写真のコーナーが大好きです。

(北見地区 遠藤 幸枝さん)

楽しんで見ていただけて良かったです!

これからもみなさんに楽しんでいただける広報誌作りに精進します!

こ

の所、天気が良くないので収穫作業が心配ですが、良いものたくさん獲れるといいなと願いを込めて・・・。

(訓子府地区・岡崎 幸恵さん)

今年は良い出来秋を迎えたいですね。私たちも祈っています。まずは良い天気が続きますように!! (><)

第7回 理事会報告

8月29日、午前9時より第7回定例理事会が開催され、報告事項13件、議決事項4件、協議事項1件が協議され、原案通り承認されました。

【報告事項】

① 平成25年産共計玉ねぎ・馬鈴しょ本精算監査報告について

② 組合員状況報告について

③ 財務状況報告について

④ 平成26年度上半期収支実績及び決算見込みについて

⑤ 燃料手当の支給について

⑥ 対策農家の上半期の状況について

⑦ 8/11台風被害並びに8/24大雨被害について

⑧ 作況調査（8月15日）報告について

⑨ 秋小麦の雪腐病防除指導方針について

⑩ 土壌診断の支援についての要請について

⑪ H26年産麦類の収穫及び品質状況について

⑫ H26年産瀬原馬鈴しょの概算金について

⑬ 平成26年度役員海外研修報告について

【議決事項】

① 出資減口について

② 外部回転出資の積立について

③ 当組合との利益相反取引に係る取扱いについて

④ 平成26年度夏期地区別懇談会Q&Aについて

【協議事項】

① J Aグループ北海道改革プランについて

きたみらいから2人が表彰

J A 共済連北海道は8月1日、平成26年度全道 L A ・スマサポ大会を札幌市の共済ビルで開催しました。平成25年度に優秀な実績を挙げたライフアドバイザーとスマイルサポーターを表彰し、当 J A からは L A 2 人が表彰を受けました。

顕彰者一覧

顕彰部門	職員氏名	所属部署
広域推進の部	菅原 人志	金融共済部 本店共済課
新人LAの部 第5位	武田 麻里	金融共済部 本店共済課

きたみらい野球部 全道大会出場

8月26日、27日に江別市で第55回全道 J A 野球大会が開かれ、きたみらいを含む15チームが出場しました。

きたみらいは J A あさひかわと対戦、0－7で奮闘空しく一回戦敗退となりました。大会は J A 道央が優勝し、準優勝は J A あさひかわとなりました。

来年も全道大会に出場できるよう戦いますので、変わらぬ応援のほどよろしくお願い致します。

連載 TPP交渉について④

東山 寛

（北海道大学農学研究院講師）

東山 寛氏

（ひがしやま かん）

一 略 歴 一

北海道大学大学院農学研究院講師

＜経歴＞

北海道大学大学院農学研究科博士課程修了。博士（農学）。秋田県立大学生物資源科学部を経て2004年10月北海道大学大学院農学研究院助手。07年4月助教。13年1月から現職。1967年北海道生まれ。

TPP交渉は7月3日、12日のカナダ（オタワ）での交渉官会合が終了し、次回は9月1、10日の日程で同じく交渉官会合がベトナム（ハノイ）で開催される予定です。TPPの閣僚会合は5月19・20日にシンガポールで開催しましたが、現時点で次回開催の見通しは立っていません。TPP交渉の21分野のうち「知的財産」「国有企業」「環境」は特に難航していますが、これ以外の非難航分野でも残された論点が「100以上ある」と言われてきました。数多くの論点を抱えたまま閣僚会合を開催しても前進が乏しかったのがこれまでの実情です。今の交渉は、①論点を「難航分野」と「非難航分野」に仕分け、②前者は「政治判断」が必要なので閣僚会合に委ねるが（閣僚マター）、後者は交渉官レベルで出来るだけ解決を図る（交渉官マター）、③閣僚会合に上げる論点が絞り込まれた段階で「最後」の閣僚会合を開催する、という流れで進められています。オタワ会合での状況を整理しておくのと表のようになるでしょう。TPPはアクセス（市場開放）分野よりも、ルール分野で難航点を多く抱えています。合意すれば各国の国内制度をそれに合わせて変えることになりませんが、日本の「規制改革」はそれを先取りするような動きを含んでいると思われるます。

農産物を含む物品市場アクセスは、依然として二国間交渉です。その焦点は日米交渉で、オタワ会合後の7月14・15日、そして8月4・5日と立て続けに開催されました。4月の「日米合意」（首脳会談）で少なくとも牛肉・豚肉については、アメリカは関税全廃要求を取り下げたとされています。その後は、①関税削減の水準、②関税引き下げにかけける期間、③関税割当・セーフガード措置をめぐって、個々の品目に扱いを決める交渉が進められているとみられます。しかし「関税全廃ではない」ことに対するアメリカ国内（議会及び利害関係者）の反発が強まっており、事態は依然として流動的です。アメリカは中間選挙（11月4日）を控えているので、それに先立って日米間が決着するようなことはないと思われれます。時間をかけて慎重に検討すべきです。

TPP交渉の分野別状況

	閣僚マター	交渉官マター
難航分野（ルール分野）	・知的財産（著作権、医薬品など） ・国有企業 ・環境（紛争解決が難航）	※分科会を開催（環境を除く） ※ハノイでは医薬品を議論する予定
非難航分野	アクセス	※物品市場アクセスは二国間で交渉 ・越境サービス ・政府調達 ・NCM（非適合措置）
	ルール	・物品テキスト ・原産地規則（品目別細則が難航） ・TBT ・繊維 ・SPS（紛争解決が難航） ・労働（紛争解決が難航） ・法的・制度的事項 ・投資（パフォーマンクス要求が難航） ・金融サービス（論点は1つだけ） ・電子商取引

平成26年度版 農家のためのなんでもわかる農業の税制（全国農業会議所発行）より引用

【平成21年度税制改正】

農地の永続的な確保と有効利用の徹底を目的とした農地等の改革を踏まえ、相続税猶予制度についても、農地の有効利用を促進する貸付けも適用対象とする等の見直しが行われました。

相続税納税猶予制度の概要

平成26年度版 農家のためのなんでもわかる農業の税制

	旧制度	新制度
	平成21年12月14日以前の相続	平成21年12月15日以後の相続
一般農地（市街化区域外の農地等）	○相続人が自ら営農をしなければならない ・猶予期間中に営農でできなくなったり、農地を貸し付けられれば猶予は打ち切り ・身体障害などで営農でできなくなっても農地を貸し付けできない	○農地を貸し付けても納税猶予は継続 ・特定貸付けを行った場合 ・身体障害などにより営農が困難となった場合に貸付けを行った場合（営農困難時貸付け） （注）農業経営基盤強化促進法に基づく事業により既に貸し付けられている農地について、新たに相続が発生した場合も納税猶予の対象となります。
	○20年間自ら営農することにより猶予税額は免除	○相続人の死亡により猶予税額は免除 ・相続人は、自ら営農又は特定貸付け等により農地としての利用を継続する必要があります。
市街化区域内の農地等（生産緑地を含む）	〔三大都市圏の特定市〕 終身自ら営農を行うことで猶予税額は免除 〔三大都市圏以外〕 20年間自ら営農を行うことで猶予税額は免除	・旧制度どおり ・身体障害などにより営農が困難となった場合には貸付けが可能に

（注）平成21年12月14日以前に発生した相続等により相続税の納税猶予制度の適用を受けている者は、同年12月15日以後においても旧制度の適用を受けることになります。なお、旧制度の納税猶予適用者であっても特定貸付けを行うことができますが、特定貸付けを行った時点で、新制度の適用を受けることになります。

端野町農業物産フェア

10月19日（日）

午前10:00～午後2:00

場所： J A きたみらい 端野地区事務所前

もっと馬力だすべえ祭

9月23日（火）秋分の日

午前11:00～午後2:00

場所：置戸町中央公民館 前庭広場



【材料：2人分】

パン（バケット）	1/2本
イワシ	大2尾
キャベツ	適量
トマト	1/2個
レタス	適量
ケチャップ	大さじ2
粒マスタード	小さじ2
マヨネーズ	大さじ2
小麦粉	少々
EVオリーブ油	大さじ1

イワシのサンドイッチ

【エネルギー約430kcal(1人分)】

【作り方】

- ①イワシは三枚におろし、塩・こしょう（材料外）をして小麦粉をつける。オリーブ油をひいたフライパンでイワシの両面を焼く。
- ②キャベツは千切り。トマトは薄切り。レタスは手でちぎっておく。
- ③ケチャップに粒マスタードを入れて、混ぜ合わせる。（粒マスタードがないときは、からしを少量）
- ④パンは縦半分に切り、片面にケチャップ、もう片面にマヨネーズを塗り、野菜とソテーしたイワシを挟む。
※トーストした食パンで同じように挟んで食べるのもおすすめです。

メモ

食べで良し、健康に良し、薬にも良しといわれてきたイワシ。脂がのる初夏から初秋が一番おいしい季節です。コレステロールを下げ、老化現象の予防にも役立つといわれています。新鮮なイワシを見つけたらたっぷりいただきます。



♥おいしいもの大好き!♥



【材料：4人分】

オレンジ	1個
スイカ	200g
メロン	200g
キウイ	1個
バナナ	1本
ブルーベリー	20粒
漬け込み水	
レモン汁	1/2個分
白ワイン	大さじ3
はちみつ	大さじ2
ミント	少々

マチェドニア

【エネルギー約110kcal(1人分)】

【作り方】

- ①ボウルにレモン汁、白ワイン、はちみつを入れて漬け込み水を作る。
- ②フルーツはおよそ同じ分量を用意し、食べやすい大きさに切り①へ入れる。
- ③バナナは変色を防ぐためにレモン汁（材料外）をかけてから漬けて込む。
- ④フルーツは崩さないように優しく混ぜ合わせる。
- ⑤冷蔵庫で最低1時間以上冷やして器に盛り付け、ミントを添えていただく。

メモ

マチェドニアは、フルーツポンチのようにいろいろな果物が入った、イタリアのデザートです。好みの果物を4～5種類以上用意し、数時間漬け込むだけで完成。今回は白ワインを使いますが、子ども向けにはオレンジジュースなどでお楽しみください。

編集後記

- ・今月号の特集では農業実習生のみなさんをご紹介しました。各々楽しみながら実習に励んでいる姿がとても印象的でした。きっと良い夏の思い出になったのではないのでしょうか。
- ・また、各食農教育活動についても紹介しましたが、どのイベントも大盛況に終わり、一般の方々の農業や食への興味・関心を感じることが出来ました。今後もご紹介していきたいと思っています。
- ・いよいよ収穫作業が本格化する時期に入り、これからの天気が気になるところではないのでしょうか。しかし、まずは自身の健康と農作業事故に気を付けてください。そしてみんなで良い出来秋を迎えましょう！

(丸山 恵理)

JAきたみらい概要

(平成26年8月20日現在)

- ・組合員数(正) 1,762人
- ・組合員数(准) 5,832人
- ・組合員戸数(正) 1,156戸
- ・貯金 102,632百万円
- ・貸出金 20,429百万円
- ・出資金 5,019百万円